

## 第4回 西脇市障害者地域支援会議（運営会議）まとめ②

## ご本人の高齢化、保護者の高齢化それぞれに課題になることを掘り下げる

## 障害のある当事者が高齢になることで生じる課題

親なきあと

親が動けなくなると、本人が元気であっても家での生活は難しい

一人で生活できない

金銭管理

食事の支度…栄養管理

入浴、洗濯等…清潔保持

身のまわりのことができなくなる（今までできていたこと）

できなくなっていることが理解できなくなる

体力の衰えや病気になっても自覚がもてない

自分のしたいこととできることの差がででくる？

認知能力も低くなる

老化による能力、意欲の低下

今利用しているサービスが適切か？（日中活動）

余暇を過ごす場所、支援者が少ない

入所施設に空きがない

地域の作業所に通えなくなる

今までと同じ生活をしたいと考えている（実際にはできない）

障害で受けられるサービスと介護保険で受けられるサービスが一体化していない

障害サービスから介護保険に移行すると自己負担金が発生する

サービスを受けることを拒否された時（本人認識ない）

高齢者、障害者世帯による介入の難しさ

知的障害の人の保護者が高齢になって障害者が残ったら心配で1日でも長く生きてやらねばと言われる

自分で高齢者なので万一認知症になったら家族に迷惑がかかるとか考える事がある

子どもも障害をもっている人の場合、子どもの将来についてどのタイミングで親と離れるか

早くから（若いうち）支援を受けながらの生活に慣れておくと年を重ねた時、順応できるのでは？

保護者が高齢になることで生じる課題（保護者の思い）
---------------------------

<p>いつまで自分が元気でいられるか不安を感じながら暮らしている</p> <p>子どもがひとりで生活できるサービスや支援が受けられるのかという不安</p> <p>自宅での生活ができなくなる</p> <p>安心してあずけるところがほしい（施設にあずけたい）</p> <p>保護者の方の条件（体力的）がかわってくると40代利用者さんの活動が施設（宿泊設備のある）以外では停止してしまう。そういう場合に心配なく行ける施設が充実していればよいが…。長期的に住める施設</p> <p>いつまで自分が元気でいられるか不安を感じながら暮らしている</p> <p>体力的にも介護が難しくなってくる</p> <p>子供の身のまわりの世話をすることができない</p> <p>本人の介護する力が低下することの不安</p> <p>車の運転ができなくなる</p> <p>病院などへ行く移動手段がなくなる（服薬をしている人）</p> <p>経済的支援が難しくなる</p> <p>金銭管理</p> <p>本人の兄弟に気を遣う？</p> <p>自分が病気になってもこどもの面倒をみないといけない。どうしても無理をしてしまう</p> <p>保護者が主たる介護者である場合、高齢にもかかわらず頑張りすぎてしまうことがよくある</p> <p>両依存（見守り、介護）</p> <p>親亡き後の子どもの行方。いつ頃から前もって準備をしていくか。生前、どちらとも離れることに納得いかない場合</p> <p>保護者自身の体調不良等変化→自分のことも大変</p> <p>自分自身の介護への不安</p> <p>保護者が要介護状態に家族全体への支援が必要になってくる</p> <p>障害者が保護者の介護をしているケースもある</p> <p>友人の確保</p>
---